

野馬が放牧された小金牧から 陸軍・柏飛行場へ

小金牧の野馬土手

四十里野と呼ばれた小金が原には江戸時代、幕府直轄の牧(＝放牧場)が置かれ、こんぶくろ池付近は小金牧に位置していました。村や畑に馬が入らないように、また馬を捕えるためにと、野馬土手はいろいろな目的で築られました。馬の水飲み場だったと言われるこんぶくろ池の横など、園内には数か所の野馬土手が現在も残っています。



こんぶくろ池横の野馬土手

柏飛行場の掩体壕、秋水燃料庫

第二次世界大戦時、柏市域は軍郷の一つでした。広大な牧の跡地だったことも要因となって、陸軍飛行場が建設され、陸軍の部隊や軍事施設も次々に設置されました。昭和13年完成の柏飛行場は帝都防空の主要な航空基地となり、秋水の基地にも指定。秋水とはわずか1年で陸海軍共同により開発されたB29迎撃用ロケット戦闘機で、完成前に敗戦を迎えました。部分的に残っていた、その燃料貯蔵庫5基を、2010年に柏歴史クラブがふじ池、トンボ池周辺で発見し、後に貯水装置と思われるものも確認しました。この燃料庫は全国的にみても大変貴重な遺跡です。



秋水燃料庫

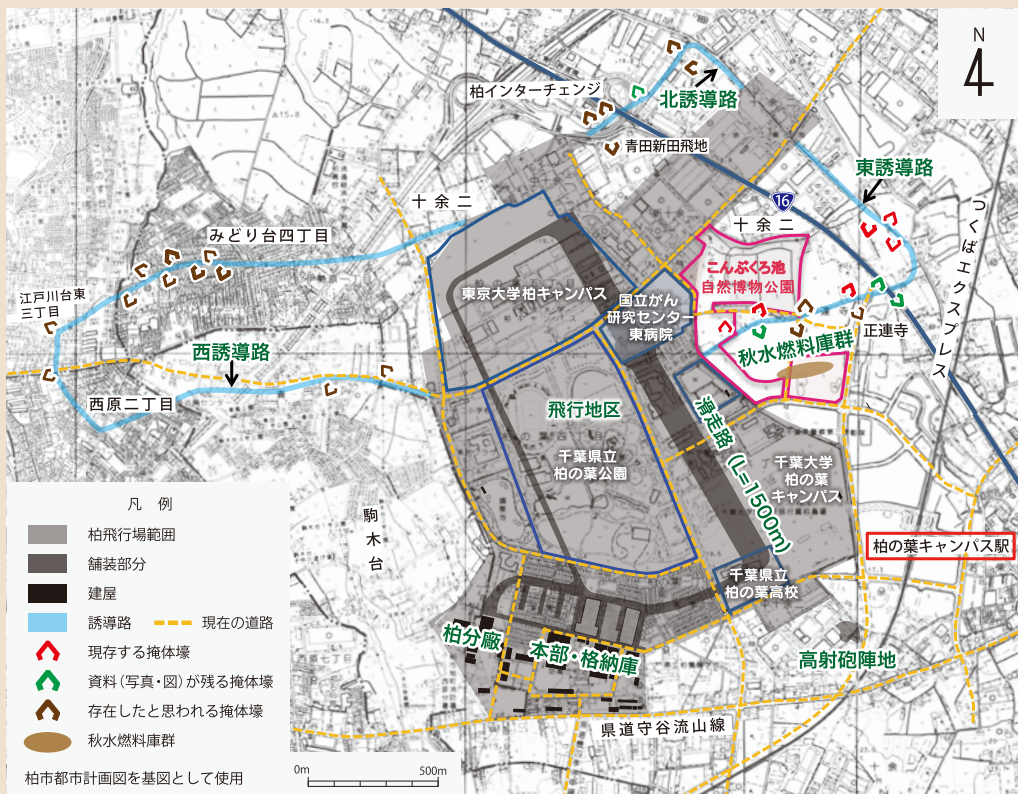
【秋水燃料庫】

飛行場隣接地に造られた、半地下・L字型・ヒューム管を使用した燃料庫で、3基が園内に埋め戻されています(うち1基は本体なし)。秋水は甲液(80%濃度過酸化水素)と乙液(水加ヒドラジンとメタノールなどの混合液)を混ぜ、推力とします。写真の棚のようなところに、甲液を入れた瓶を並べ保管しました。

【掩体壕】

敵からの爆撃や爆風から戦闘機を守る施設。柏飛行場の掩体壕は、土手で築かれた「無蓋掩体壕」で、当時79基造られたという記録が残っています。形は写真(模型)のような馬蹄形。柏歴史クラブが2009年に6基残っているのを確認し、そのうち1基が園内で保存、公開されています。

掩体壕(㊤園内で保存されている1基 ㊦模型)



柏飛行場位置図(柏歴史クラブ 2011年作成)に一部加筆